

日本児童教育専門学校 教育課程編成委員会 開催記録

1.日時 平成31年1月11日(金) 15:00~16:00

2.場所 ワイム貸会議室 RoomG

3.委員等氏名及び略歴

片岡 輝 東京家政大学名誉教授・社会福祉法人緑伸会理事長
佐久間 貴子 株式会社ベネッセスタイルケア 取締役
奥羽 弥生 株式会社マミーインターナショナル 教育事業部 次長
鈴木 佳代子 株式会社チャイルドステージ 専務取締役

<陪席>

小林 光俊 学校法人敬心学園 理事長
阿久津 撰 学校法人敬心学園 日本児童教育専門学校 副校長
坂本 秀子 臨床心理士
渡辺 裕子 株式会社ナジック・アイ・サポート 東日本統括本部キャリア支援部
行場 裕樹 仙台幼児保育専門学校 教頭
照屋 健 東海こども専門学校
岸本 光正 学校法人敬心学園 学校支援本部
紅葉 真幸 学校法人敬心学園 学校支援本部
小林 英一 学校法人敬心学園 学校支援本部
中西 和子 学校法人敬心学園 日本児童教育専門学校 教務部長
鈴木 八重子 学校法人敬心学園 日本児童教育専門学校 総合子ども学科 学科長
安部 高太朗 学校法人敬心学園 日本児童教育専門学校 専任講師

<事務局>

芝井 華子・根本敦子

◆議事要約◆

*本校は2学科とも保育系学科のため、当日は学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会を同時に進めた。内容は教育課程編成委員会に該当部分の抜粋とする。

1. 保育分野ガイドラインについて

1.1 前回までの会議の内容を踏まえた変更の確認

2.2.3 デュアル教育に関わる各プレイヤーの役割とメリットについて

学生のメリットの部分、「学生が主体的に学ぶことができる」とし、現場のメリットで「保育士という職種の重要性や価値、魅力を学生に直接に伝えることにより、保育士としての職業人意識を醸成し、就労意欲を高めることができる。」とした。

3.2(6) リスクマネジメントについて

感染症についてのリスクを追記。

3.4 デュアル教育の評価について

中退率・GPA についての記載も追加した。

1.2 「到達目標レベル表」について

教育支援ツール開発分科会で議論を行っていた「到達目標レベル表」の改訂版について報告した。

今回の改訂では、評価の段階ごとに「評価1〈観る・試みる〉」「評価2〈行動する〉」「評価3〈思考・行動・省察〉」「評価4〈改善した行動〉」と設定し、それぞれの評価語をより詳しくしたもの追加した。

1.3 「保育現場での活動」をアルバイトとして行う試みの報告

中西委員より、日本児童教育専門学校の保育福祉科に在学中の学生がアルバイトを行っている保育施設で、“Step by Step”の質問項目での振り返りを行っていただいたことの報告があった。学生にとっては、振り返るチャンスがなかったのも学びになった、施設側からも初心者のかえり、実習生や入職後間もない職員への対応にとっても参考になった、と言っていた。学校の授業と保育の現場で行っていることとの関連性を学生がどのようにとらえているのかについてもコメントを取ったので、今後カリキュラムを考える際の参考にできそうである。それを通して、学校と現場で協働して学生を育てていける可能性を感じた。

2. 成果報告会報告

12/20 に実施した、成果報告会の報告を行った。参考資料として、成果報告書にも記載する予定の成果報告会報告を共有した。

内容は、事業の報告と、学生のポスター発表を行ったが、学生の感想を見ると外部の方を迎えての発表が、ご来場いただいた方々の温かいまなざしを受けて学生にとっては大変深い学びになったようだった。

以上、終了時間となり、散会となった。